

## 論文審査の結果の要旨

平成 26 年 7 月 24 日

張麗(DL1998-08)による博士論文のタイトルは *Oppression, Resistance, and Empowerment in the Site of Family: A Study of Chinese American Women's Writings* (ファミリーの場における抑圧・抵抗とエンパワーメント：中国系アメリカ人女性作家作品研究) である。

Jade Snow Wang による *Fifth Chinese Daughter*; と Maxine Hong Kingston による *The Woman Warrior*; および Amy Tan による *Joy Luck Club* などの中国系アメリカ人女性作家による自伝的作品を取り上げている。これらの作品は、アメリカ文学におけるアジア民族作家による重要な領域を切り拓いたことで高く評価されているが、本質論的批判も浴びてきた。移民家族の濃密で親しい人間関係のファミリーというトポスにおいて女性がその成長過程で体験することになった中国文化の伝統とアメリカ文化との接触摩擦が惹き起こしてきた抑圧を描いているが、特に母親と娘の関係を重要とし、その中での抑圧を問題としている。それに対してどのように女性たちが抵抗してきたかに注目して分析を行い、その中から生まれる女性たちのエンパワーメントの読み解きを行っている。これまでの文学批評の中から特に本質論的批判者の Frank Chin などによる批評に対してはフェミニズムの枠組みを使って、これらの作家たちの立場と女性の主体性を擁護し、ジェンダー研究の視点からフェミニズム批評を試みている。

現在の中国における中国系アメリカ人女性作家の作品に対する興味の増大にもかかわらず、ナショナリズムの立場に立って中国の伝統文化を弁護するという批評が多い中で、この論文は明確に家父長制に抵抗するフェミニズム批評の立場をとるものである。この論文を執筆中、中国の大学における英米文学研究者および教育者という立場から、これら中国系アメリカ人女性作家の作品群が、最近の中国における文学研究者の間でどのように受容され、あるいは批判されているかを知る大変貴重な立場にあったため、それらの新しい情報も加えつつ、作品研究を行っていることが大きな強みであり、これらの作品については既に多くの先行研究がなされているにもかかわらず、この研究分野におけるひとつの新しい貢献をする可能性を持つ論文とすることが出来たと評価出来る。

この論文の全体を通して、ファミリーという特別な人間関係の生み出すトポスが、文学の他にもドラマや演劇や映画という表現形態に対しても、劇的な抑圧・抵抗・成長とエンパワーメントというプロセスについての構造とレファレンスを送り出す重要な発信源となっていることを読み解く事に成功しているとして論文は合格に値すると判断されました。

口述試験においては、審査にあたった諸先生がたから主に次のような質問がなされました。(副査には水田宗子先生、ポール・シャロウ先生、芳賀浩一先生があたって下さいました。感謝申し上げます)

- 1) 抑圧、反抗、エンパワーメントというプロセスは、必ずしも中国系アメリカ人家族に特有なものではないのではないか、とう質問に対しては、日系アメリカ人作家による作品の例を挙げつつ、その上で、そのような傾向は、中国系アメリカ人家族においてより強く見られるという見解を説明し、十分な回答であったと認められた。
- 2) これらの作家と作品群については、多くの先行研究がなされているが、それらはすべて、これらの作品をフィクションとして扱っているが、張麗さんは「自伝的作品」として扱っている。それをどのように説明するか、という質問に対しては、半分はフィクションとして扱えるが、やはりその基盤となっているのは作家の自伝的体験であり、自伝だけでなく、母親たちや、その他の女性の体験と記憶をも含めて書き記した作品としての重要性を明らかにするためにも、「自伝的作品」として扱っていると説明された。十分な回答であったと認められた。
- 3) 女性作家による作品のフェミニスト分析をするというが、フェミニスト分析の枠組みをどのように説明するのかという質問に対しては、家父長制度と闘い、沈黙させられ、声を失い、尊厳を奪われ、記憶を消されているという受け身的な立場ではなく、母親が多くを物語るという形をとって、女性たちのコレクティブな記憶を神話や自伝的記憶として語り始めているという指摘がなされた。自伝的小説の文学論と母親の重要性についてはさらに詳しく分析する必要があるのではないか、という指摘に対しては、将来的研究課題としてきちんと引き受けたいと答えがなされた。
- 4) 第3章のキングストンについての議論の中で、神話と沈黙の間にどのような関係があるかを尋ねられ、記憶というものが、中国系アメリカ人女性のアイデンティティの危機を解決するカギであると答えた。また母親の個人的あるいは文化的トラウマ（傷）が物語りを通してアメリカで生まれた娘たちへと受け継がれていくのであると答えた。十分な回答と認められた。

以上をもちまして、学位請求論文審査結果として、論文内容の判定も、口述審査の判定も、共に「合」と判定されましたことを、謹んでご報告申し上げます。

主査（職・氏名） 客員教授 和智綾子